

教育ボランティアだよりNo.36

～外国人の子どもとの教育と関わる～

2024年1月10日 教育ボランティア委員会

中央市立田富小学校・・・12月18日（月）訪問

訪問者：仲本康一郎

田富小学校は、明治5年に開校し、創立144年という長い歴史を持つ学校です。現在、18学級、347名の児童が学んでいます。田富小学校は、山梨県下でも外国人が多く住む外国人集住地域にあり、おもに南米日系人の子どもたちが大勢学ぶ国際色豊かな開かれた学校です。

田富小学校は、外国人児童生徒教育の充実を掲げ、山梨県下でも先進的な日本語指導を行っている拠点校です。今回は、田富小学校の「日本語教室」にお邪魔してきました！

幼少発達教育コースの佐藤紗也香さんに聞いてみました！

Q1. 教育ボランティア活動をしようと思ったきっかけは何ですか？

日本語教育に興味があって、外国籍児童が多く学んでいる田富小学校で、**外国人の子どもとの学びの現場**をみたいと思ったことです。

Q2. 今回の教育ボランティア活動で気づいたことは何ですか？

日本語が分からない子どもに、日本語で説明することの難しさを感じました。例えば、算数の「帯分数」の説明に苦労しましたが、**やさしい日本語**で説明する力は、これから日本人の子どもを教えるときも役立つと思います。

Q3. ボランティア活動をした田富小学校はどうでしたか？

学校全体が外国人の子どもたちを温かく迎える雰囲気があって、日本語指導の先生方だけでなく、校長先生も教頭先生も、在籍学級の先生方も**みんなで子どもたちを育てていこう**としていました。日本人の子どもたちも外国人の子どもたちとあたりまえのように仲良く学んでいる姿が印象的でした。

Q4. 日本語教室での指導の様子はどうでしたか？

外国人の子どもたち**一人一人の個別の指導計画**をたてて授業をしていることがわかりました。子どもたちの日本語のレベルはみんな違うし、他にも書くことは得意でも話すことは苦手な子どももいて、そんな児童には日本語教室でたくさん話す機会をつくってあげていました。

Q5. 教育ボランティア活動をはじめようと考えている学生へのアドバイス

1年生のときは問題意識もなくボランティアを始めましたが、2年生以降からは目標をもって学校を選びました。日々の活動では、子どもと積極的に話すとか、**小さなことでもいいので何か目標をもって活動する**といいと思います。



田富小学校



学びを支援する佐藤さん

佐野 希（さの のぞむ）教頭先生のお話

教育ボランティアの学生が来てくれて、本当に助かっています。私たちが目の届かない子どもたちにも目をかけてもらえるし、子どもの目線に近い学生の皆さんには、子どもたちも積極的に関わろうとし、ふだん私たちには話してくれないようなこともお話するようです。

外国人の子どもとの教育に関わらず、もちろんそうしたことを学ぶには最適な学校ですが、いろいろな学生さんに本校に来てほしいと思います。教職志望の学生の皆さんには、本校で教育への肯定的イメージを育ててもらえればと願っています。

山梨大学の教育ボランティア学生を温かく迎えてくださる田富小学校のすべての先生方に感謝申し上げます。